



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	世界遺産知床における Public Archaeology のとりくみ
Author(s)	岩波, 連
Description	セッション1: パブリック考古学の可能性
Relation	先住民文化遺産とツーリズム : 北海道の可能性(International Symposium: Indigenous Heritage and Tourism - Potential in Hokkaido). 2012年10月13日-14日. 北海道大学学術交流会館小講堂, 札幌市.
Issue Date	2012-10-14
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/51244
Type	conference presentation
File Information	session1report1.pdf



International symposium 2012 Indigenous Cultural Heritage and Tourism

国際シンポジウム
先住民文化遺産とツーリズム
ー北海道の可能性ー

『世界遺産知床における Public Archaeology のとりくみ』

岩波 連

(北海道大学大学院文学研究科修士課程)

世界遺産知床における
Public Archaeologyのとりくみ

北海道大学大学院文学研究科
修士課程 岩波連

発表構成

1. Public Archaeologyとは
2. 世界自然遺産知床とは
3. 知床に存在する文化遺産
4. 知床におけるPublic Archaeologyの実践
- 知床における今後の課題

Public Archaeologyとは

「誰のため」の考古学か

- ・Public Archaeologyは1972年アメリカで出版されたMcGimseyの著作によって述べられたのが初出とされる
- ・70年代の欧米における開発行為に伴う遺跡破壊が進む中での**考古学への市民の参加**と80年代の**先住民と考古学との関係性**という二つの出来事を踏まえたうえで成立
- ・パブリック考古学が扱う内容は考古学と現代社会の間の諸問題であり、両者をつなぐ役割を担って誕生
- ・二つの指向:
「普及・啓発的な教育活動を推進する」と「考古学を一般市民に解放する」
- ・発掘によって得られた成果は「誰のもの」なのか、「私たちの歴史」という表現における「私たち」とは誰をさすのか。こうした問いに対して多様な立場の人たちと対話を重ねながら資料を「公開」していくことが求められる 加藤2011、松田・岡村2005より

日本でのパブリック考古学の取り組み

現場説明会は日本の先見的なパブリック考古学の取り組みとして評価されている



奈良文化財研究所HPより

特に1953年からの岡山県月の輪古墳発掘調査に際して、「月の輪方式」とも呼ばれるようになった研究者と学生、地元住民の協力による全面的な発掘調査はパブリック考古学の事例の中でも注目を集めている



世界自然遺産知床とは

- 2005年に日本で3番目の世界自然遺産登録
- 沖合い3kmまでの初の海洋地域を含む
- 北緯44度、北半球最南端の流水接岸地である



創路開発建設部のHPより

世界自然遺産知床の評価



環境省のHPより

森林と海洋の複合的な生態系のあり方が評価される

知床にある多くの文化遺産(=人類活動の痕跡)

▶考古学的な要素

遺産エリアの内外に多くの遺跡が確認されている



斜里町 チャシコツ岬下B遺跡2号住居址



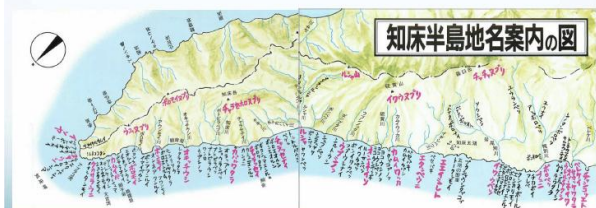
知床博物館編「しれとこライブラリー⑨ 知床の考古」より

羅臼町 トビニウス川南岸遺跡
縄文時代早期(約8,000年前)の竪穴住居がくぼみとして地表面から確認できる

知床にある多くの文化遺産

▶アイヌ民族によって形成された要素

知床半島の斜里側、羅臼側双方に多くのチャシと地名が残る



知床博物館「郷土学習シリーズ第6集 知床半島西岸の地名と伝説」より

知床にある多くの文化遺産

▶和人の入植によって形成された要素

原生林を切り開いて広がる開拓農地

硫黄山噴出の純度の高い硫黄を採掘していた痕跡



運搬リフトの石組
知床博物館発行「郷土学習シリーズ20 知床・斜里の近代化遺産」より

パブリック考古学の実践

チャシコツ岬下B遺跡の発掘調査



多くの遺物

住居址から出土したオホーツク式土器



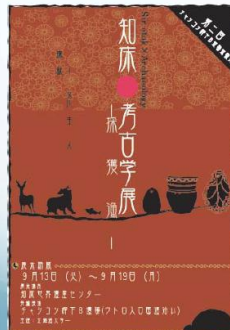
白滝産の黒曜石で作られた石鏃と
オホーツク文化特有の大型の石錘



ヒグマの犬歯で作られた海獣を模したペンダント



道の駅、世界遺産センターでの発掘成果速報展



遺跡から出土した遺物やオホーツク文化について
パネルなどで展示。前日に出土した遺物も展示
することで発掘現場との同時性を与えている。

地元の小中学生・観光客の体験発掘



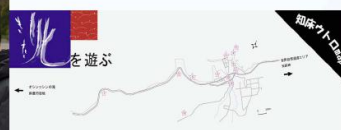
地元の小中学生や飛び込みの観光客などを対象に実際の遺跡現場の体験発掘を実施

ヘリテージトレイルの作成



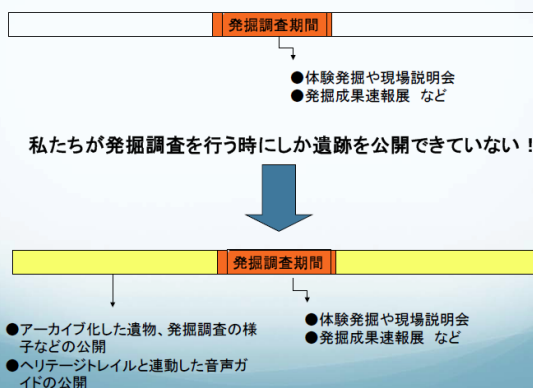
音声ガイドの作成

遺跡や自然をスポットに設定



文化遺産MAPの作成

いつでも情報を得られる情報公開へ



今後の課題

知床におけるパブリック考古学の流れ

現状

- ①文化資源としての遺跡、遺物の価値の周知
- 今後の目標
- ②アイヌ民族も含めた地元社会の様々な立場の人との対話を通じて「知床」におけるあるべき遺跡・遺物の活用方法を提言する
- ③チャシコツ岬下B遺跡の他にもこうした活動を広げる
- ④世界自然遺産としての「知床」に文化遺産が不可欠なものとしてあることを研究者側から積極的に示していく



女満別空港での遺物の公開の例
網走周辺ではこうした遺物の展示が様々な場所で行われている